

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300011		
法人名	社会福祉法人 小松島敬和会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	徳島県小松島市坂野町字櫛のべ35番地		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する特養やサービスと連絡を密にとり、イベントや行事に参加させて頂いている。又、法人内の在宅のケアマネとも、相談や連絡を密にとり、地域に密着した施設を目指している。家族やご近所の方、地域の方が遠慮なく面会に訪れる事が出来る様に柔軟に対応し、家族やご近所の方、地域の方との関係が途切れない様に努力している。玄関や利用者の部屋に、季節にあった貼り絵や塗り絵の作品を壁面に飾ったり、展示し、季節を感じて頂く様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田畑に囲まれた自然豊かな場所に位置している。法人とともに地域に根ざした事業所となるよう取り組んでいる。利用者の友人や知人、ボランティアの来訪が多くあり、地域の一員として日常的に交流している。運営推進会議には、市内の5つのグループホームがお互いに参加しあっており、地域住民の代表者や市担当者も加わって、情報交換や検討を行っている。一人での過ごし方や共有空間での居場所作りに配慮し、落ち着いて生活することができるよう配慮している。協力医療機関や同一法人の運営する他サービス事業所と密に連携を図り、利用者や家族だけでなく職員にとっても安心できる体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に職員全員で理念を復唱している。理念に沿った支援が出来る様に意識し、実行出来る様に心がけている。	全職員で地域密着型サービスの役割について確認し合い、理念の共有と実践に取り組んでいる。毎朝、職員間で理念を唱和している。職員は、つねに理念に立ち戻ってサービスを提供するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族やご近所の方、地域の方が、遠慮なく面会に訪れる事が出来る様に、柔軟に対応している。ボランティアサークルにも来苑して頂き、交流できる様に取り組んでいる。	事業所には、保育園児の来訪がある。また、小学校の運動会見学や地域の文化祭に参加するなどして交流を深めている。様々なボランティアの来訪があり、演芸や手芸と一緒に楽しんでいる。同一法人の運営する他サービス事業所と合同で秋祭りを開催しており、地域の人との交流の機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに参加し、認知症の方への理解や暮らしぶりに理解して頂く様に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の施設の管理者や職員に参加して頂き、情報交換を行い、意見などを頂いてサービスの向上に努めている。	運営推進会議には、市内の5つのグループホームの管理者が参加し合っている。地域住民の代表者や市担当者も加わり、意見交換や情報共有を行っている。また会議は、事業所の共有スペースで開催するため、多くの利用者が自然に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小松島介護福祉課や社会福祉協議会の担当者にも運営推進会議に参加して頂き、情報交換や問題解決の相談を行い、協力して頂いている。	市担当者に事業所の取り組みや利用者の暮らしぶりを伝え、連携を深めている。分からないことは、すぐに電話で連絡し、問題を解決することができるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、月に一度は、委員会を開催し、身体拘束を行わない支援の方法などを話し合い、実践できる様に努力している。	事業所では、日中は玄関などを開錠し自由に行き来できるようにしている。職場内で事例検討を行うなどして、全職員で学習する機会を設けている。職員は、利用者が外に出たい時にはできるだけ付きそい、利用者の自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、月に一度は、委員会を開催し、虐待についての理解をし、虐待が見過ごされない様に、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、学ぶ機会を持ち、必要とされる利用者や家族が活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時などに不安や疑問について相談、説明を行い、理解し納得して頂ける様に務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの意見や要望が伝えられる様に、玄関に意見箱を設置している。家族の面会時に利用者の近況を報告し、意見や要望を伝えられる様に務めている。	職員は、利用者との日常会話から意見や思いを聞きとっている。家族の来訪時には積極的に意見を聞き、来訪の困難な家族には電話連絡時に意見や要望等を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送り時に現場の職員の意見や提案を聴き、職員の意欲や質の向上に反映できる様に務めている。	日頃から管理者は職員の話に耳を傾け、意見やアイデアを引き出すようにしている。また、職員から申し出があった際には時間を設けてじっくりと話を聞くようにしている。管理者から代表者へ職員の意見を伝えており、勤務体制や運営面全般に反映することができるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、職員一人一人が向上心が持って働ける様に環境や条件の整備に努めている。資格習得に応じた手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が立場、経験の段階に応じて研修会に参加し、技術や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議などを通じて、管理者や職員が他のグループホームと交流を持ち、情報交換や、相談をする機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階で、利用者本人とゆっくり話し、本人の要望や不安に答えられる様に務めている。担当者を決め信頼関係を保てる様に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、困っている事、不安な事に耳を傾け、家族の要望や不安に答えられる様に務めている。信頼関係を保てる様に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や主治医と相談しながら、必要なサービスを見極め、他のサービスの利用などの調整も行う様に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望や不安を傾聴し、利用者本人との信頼関係を保てる様に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の困っている事や悩んでいる事に耳を傾け、信頼関係が築いていける様に務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域でのイベントなどに参加したり、近所方や友人の方に会いに来て頂いたりして、今までの関係性が途切れない様に務めている。	事業所では、家族の協力を得たうえで、馴染みの美容院やお店に出かけている。近所の友人や知人の来訪もあり、事業所内でくつろいで過ごすことができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員が把握し、利用者が孤立しない様に、利用者同士の交流がスムーズに行える様な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1階	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		退所された利用者様にもひかり便りを送り、行事に参加して頂いたり、運営推進会議に参加して頂いたりして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		入所時に家族や利用者本人に希望や意向を尋ね、職員が把握し、家族や利用者本人の希望や意向に添える様に努めている。		職員は、日頃の利用者との関わりを通じて、利用者の意向や希望を把握するよう努めている。言葉だけでなく、歩き方や立ち上がる動作、表情等からも、本人のそのときの気持ちを考えて支援するようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		面接時や入所時に生活歴や生活環境を家族や利用者本人から情報収集している。又、苑生活の中での会話から、本人の希望や要望を把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		利用者一人一人の心身の状態を観察し、職員が気づいた事などは、日誌に記録し、情報の交換ができる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		家族、利用者本人、担当職員、ケアマネを交え情報交換し、カンファレンスを行っている。利用者本人、家族の要望や意向に添った介護計画を作成している。		事業所では、担当職員が中心となって、半年に1回、介護計画を見直している。また、3か月に1回はモニタリングを行い、本人や家族の希望、状況の変化等に応じた計画書となるようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		管理日誌や個別日誌に利用者の様子や変化を記録し、職員間で情報交換を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		家族や利用者本人の意向や要望が柔軟に対応出来る様に特養や在宅のケアマネと情報交換を行い、サービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、小松島市介護福祉課や地域包括支援センターと情報を交換、共用し、安全で豊かな生活が出来る様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、週2回の往診を受けている。利用者本人、家族の希望があれば、必要な医療機関の受診も支援している。	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得たうえで、専門医の受診も支援している。車椅子の方は事業所が送迎を担い、受診結果等の情報を家族とも共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の往診時、利用者の変化や支援の方法について、看護職に相談し、適切な看護ができる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者本人が安心して治療ができる様に、医療機関に情報を提供している。入院により、家族、利用者本人のストレスや負担を軽減できる様に支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で利用者本人、家族と話し合い、利用者本人、家族の希望、要望に答える事ができる様に、支援できる様に支援に取り組んでいる。	入居時の段階で、利用者や家族と終末期のあり方を話し合っている。本人の状態変化や家族の意向を踏まえて計画を変更している。協力医療機関や同一法人内の看護師と密に連携を図り、緊急時に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生時に慌てず確実に適切な対応が出来る様にマニュアルを作成し、研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回事業所内での避難訓練を実施している。隣接する特養、デイサービスとの合同避難訓練も行い、協力体制を築いている。	年2回、事業所で消火器訓練や避難誘導訓練等を行っている。また、水や缶詰等の備蓄も整備している。なお、年1回、同一法人の運営する他サービス事業所と合同で災害対策訓練を行っているが、地域の協力体制を十分に得るまでには至っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人の誇りやプライバシーを損ない言葉かけをするように努めている。研修や勉強会に参加し、職員全員が周知できる様に務めている。	利用者への否定的な言葉かけをすることがないよう、管理者が中心となって職員への伝達等を行っている。職員は利用者の気持ちを大切に考えて、行動をともしたり、見守りを行ったりしている。特に排泄介助の際には、自尊心に配慮し、さり気なく声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者本人の思いや希望を聞き取り、利用者本人の思いや、希望に沿った支援ができる様に務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切に、希望や要望に沿った支援をし、職員は適切な対応ができる様に務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができる様に、なじみの化粧品を家族に用意して頂いたり、気に入った洋服を用意して頂く様に務めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の力を把握し、野菜の皮むきやテーブル拭き、下膳のお手伝いをして頂いている。食事中に本人の好みや嗜好を聞きとり、食事が楽しみになる様に心がけている。	利用者と職員で、調理前の下準備や配膳、片付けなどを行っている。お誕生会や行事食、おやつなどには、利用者からメニュー案や希望を聞き取るなどして、楽しく過ごすことができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下状態を把握し、一日を通じて十分な食事量や水分量が摂取できる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔に努めている。義歯を使用している利用者は、毎晩義歯を洗浄し、清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の失敗やおむつの使用回数を減らす様に務めている。日中は、出来るだけ、トイレ介助を行い、排泄の気持ちよさを感じて頂く様にしている。	事業所では、本人の状態にあわせて布パンツや紙パンツ、パットの種類等の使用を検討している。職員は、時間を見計らってトイレ誘導を行い、利用者が気持ちよくトイレで排泄することができるよう配慮している。ポータブルトイレやオムツも使用し、夜間の安眠に配慮した排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便の回数を把握している。便秘にならない様に食物繊維が多く摂取できるメニューを考えたり、おやつには寒天や乳製品を使用したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者一人一人の希望に沿う様に努力している。体調不良で入浴ができない時は、全身清拭を行い、清潔に努めている。	利用者の希望に応じた入浴を支援している。本人の希望で2～3日に1回の頻度で入浴する方もいるなど、一人ひとりの意向を尊重している。職員は、一人ひとりの好みや希望、状況にあわせて支援している。ゆず湯や菖蒲湯等も取り入れ、入浴を楽しんでもらうことができるよう支援している。なお、失禁時にはシャワー浴をするなどの対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣に合わせて休息したり、入眠できる様に支援している。夜間、眠れない時は、職員が傾聴し、安心して眠れるように努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用し、薬の目的や副作用、用法や用量について理解する様に務めている。服薬の管理は、職員がしており、飲み忘れが無い様に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者とコミュニケーションを図り、会話の中から生活歴や楽しみごとを見つけるために努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望やなじみのある地域を把握し、希望に沿って戸外にでかけられる様に支援している。家族の協力を得てお墓参りや外泊ができる様に支援している。	日頃から事業所では、近隣や庭の散歩等、そのときの気分や状況に応じて外出の支援を行っている。季節のお花見や行事への参加、ドライブ、買い物等の外出を行っている。また、家族の協力を得て外食を楽しんでもらうこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、利用者本人の責任のもと、お金を所持し、使える様にしている。管理が困難の利用者は、担当職員が家族に連絡し、本人が必要としているものを購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、要望により、電話をしたり、手紙のやり取りができる様に支援し、これまでの関係性が途切れない様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人が居心地良く過ごせる様に共用の生活空間では、職員が間に入り、不快や混乱を招かない様に工夫している。季節にあった壁面を利用者と作成し、居心地のよい場になる様に努めている。	共用空間は明るく、広いスペースがある。また清掃が行き届いており、清潔な環境を保っている。利用者と職員で季節感のある手芸品の作成や飾り付けを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと新聞を読んだり、家族や知人が面会に来られて時には、和室を利用できる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使いなれたタンスを自宅から持ってきて頂いたり、家族やお孫さんの写真を飾ったりして、本人が居心地よく過ごせる様に工夫している。	居室には、利用者の使い慣れた筆筒や机、椅子、ベッド、鏡台、冷蔵庫等の様々な物を持ち込んでもらっている。本人の思い出の写真や手芸品を飾り、一人ひとり落ち着いて過ごすことのできる空間作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は、バリアフリーになっており、車イスや歩行器を使用する事ができる。自室が認識できない利用者には、ネームプレートを貼付し、利用者本人が、理解できる様に工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に職員全員で理念を復唱している。理念に沿った支援が出来る様に意識し、実行出来る様に心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族やご近所の方、地域の方が、遠慮なく面会に訪れる事が出来る様に、柔軟に対応している。ボランティアサークルにも来苑して頂き、交流できる様に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに参加し、認知症の方への理解や暮らしぶりに理解して頂く様に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の施設の管理者や職員に参加して頂き、情報交換を行い、意見などを頂いてサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小松島介護福祉課や社会福祉協議会の担当者にも運営推進会議に参加して頂き、情報交換や問題解決の相談を行い、協力して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、月に一度は、委員会を開催し、身体拘束を行わない支援の方法などを話し合い、実践できる様に努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、月に一度は、委員会を開催し、虐待についての理解をし、虐待が見過ごされない様に、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、学ぶ機会を持ち、必要とされる利用者や家族が活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時などに不安や疑問について相談、説明を行い、理解し納得して頂ける様に務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの意見や要望が伝えられる様に、玄関に意見箱を設置している。家族の面会時に利用者の近況を報告し、意見や要望を伝えられる様に務めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送り時に現場の職員の意見や提案を聴き、職員の意欲や質の向上に反映できる様に務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、職員一人一人が向上心が持って働ける様に環境や条件の整備に努めている。資格習得に応じての手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が立場、経験の段階に応じて研修会に参加し、技術や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議などを通じて、管理者や職員が他のグループホームと交流を持ち、情報交換や、相談をする機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階で、利用者本人とゆっくり話し、本人の要望や不安に答えられる様に務めている。担当者を決め信頼関係を保てる様に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、困っている事、不安な事に耳を傾け、家族の要望や不安に答えられる様に務めている。信頼関係を保てる様に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や主治医と相談しながら、必要なサービスを見極め、他のサービスの利用などの調整も行う様に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望や不安を傾聴し、利用者本人との信頼関係を保てる様に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の困っている事や悩んでいる事に耳を傾け、信頼関係が築いていける様に務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域でのイベントなどに参加したり、ご近所方や友人の方に会いに来て頂いたりして、今までの関係性が途切れない様に務めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員が把握し、利用者が孤立しない様に、利用者同士の交流がスムーズに行える様な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様にもひかり便りを送り、行事に参加して頂いたり、運営推進会議に参加して頂いたりして相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族や利用者本人に希望や意向を尋ね、職員が把握し、家族や利用者本人の希望や意向に添える様に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時や入所時に生活歴や生活環境を家族や利用者本人から情報収集している。又、苑生活の中での会話から、本人の希望や要望を把握する様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の心身の状態を観察し、職員が気づいた事などは、日誌に記録し、情報の交換ができる様に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、利用者本人、担当職員、ケアマネを交え情報交換し、カンファレンスを行っている。利用者本人、家族の要望や意向に添った介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌や個別日誌に利用者の様子や変化を記録し、職員間で情報交換を行い、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者本人の意向や要望が柔軟に対応出来る様に特養や在宅のケアマネと情報交換を行い、サービスの多機能化に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、小松島市介護福祉課や地域包括支援センターと情報を交換、共用し、安全で豊かな生活が出来る様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、週2回の往診を受けている。利用者本人、家族の希望があれば、必要な医療機関の受診も支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の往診時、利用者の変化や支援の方法について、看護職に相談し、適切な看護ができる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者本人が安心して治療ができる様に、医療機関に情報を提供している。入院により、家族、利用者本人のストレスや負担を軽減できる様に支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で利用者本人、家族と話し合い、利用者本人、家族の希望、要望に答える事ができる様に、支援できる様に支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生時に慌てず確実に適切な対応が出来る様にマニュアルを作成し、研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回事業所内での避難訓練を実施している。隣接する特養、デイサービスとの合同避難訓練も行い、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人の誇りやプライバシーを損ない言葉かけをするように努めている。研修や勉強会に参加し、職員全員が周知できる様に務めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者本人の思いや希望を聞き取り、利用者本人の思いや、希望に沿った支援ができる様に務めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切に、希望や要望に沿った支援をし、職員は適切な対応ができる様に務めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができる様に、なじみの化粧品を家族に用意して頂いたり、気に入った洋服を用意して頂く様に務めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の力を把握し、野菜の皮むきやテーブル拭き、下膳のお手伝いをし、頂いている。食事中に本人の好みや嗜好を聞きとり、食事が楽しみになる様に心がけている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下状態を把握し、一日を通じて十分な食事量や水分量が摂取できる様に支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔に努めている。義歯を使用している利用者は、毎晩義歯を洗浄し、清潔に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の失敗やおむつの使用回数を減らす様に務めている。日中は、出来るだけ、トイレ介助を行い、排泄の気持ちよさを感じて頂く様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便の回数を把握している。便秘にならない様に食物繊維が多く摂取できるメニューを考えたり、おやつには寒天や乳製品を使用したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者一人一人の希望に沿う様に努力している。体調不良で入浴ができない時は、全身清拭を行い、清潔に努力している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣に合わせて休息したり、入眠できる様に支援している。夜間、眠れない時は、職員が傾聴し、安心して眠れるように努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用し、薬の目的や副作用、用法や用量について理解する様に務めている。服薬の管理は、職員がしており、飲み忘れが無い様に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者とコミュニケーションを図り、会話の中から生活歴や楽しみごとを見つけるために努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望やなじみのある地域を把握し、希望に沿って戸外にでかけられる様に支援している。家族の協力を得てお墓参りや外泊ができる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、利用者本人の責任のもと、お金を所持し、使える様にしている。管理が困難の利用者は、担当職員が家族に連絡し、本人が必要としているものを購入して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、要望により、電話をしたり、手紙のやり取りができる様に支援し、これまでの関係性が途切れない様に支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人が居心地良く過ごせる様に共用の生活空間では、職員が間に入り、不快や混乱を招かない様に工夫している。季節にあった壁面を利用者と作成し、居心地のよい場になる様に努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと新聞を読んだり、家族や知人が面会に来られて時には、和室を利用できる様に配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使いなれたタンスを自宅から持ってきて頂いたり、家族やお孫さんの写真を飾ったりして、本人が居心地よく過ごせる様に工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は、バリアフリーになっており、車イスや歩行器を使用する事ができる。自室が認識できない利用者には、ネームプレートを貼付し、利用者本人が、理解できる様に工夫をしている。			